

議 長	局 長	次 長	総括主査	総括主査	課 員	担 当

第 23 回議会改革推進会議 会議記録簿

開 催 日	平成 27 年 2 月 19 日 (木)	場 所	特別会議室
開催時間	午後 2 時 00 分～午後 4 時 12 分	休憩時間	時 分～ 時 分
			時 分～ 時 分
出席委員	全 員 ・ 欠席 名 (委員、 委員、 委員)		
その他 出席者	早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏 招聘研究員 佐藤 淳 氏	事務局 出席者	大森正則事務局長、嗟峨一郎次長、 田高慎総括主査、長内紳悟主任

(適用・要旨)

進行：座長 八重櫻友夫議長

○案件

(1) 議会活動の検証に関する指導・助言について

＜中村健先生＞

・今年度末で、650 を超える議会で議会基本条例が制定されたことになり、全国のおよそ 3 分の 1 で制定された。議員の皆さんから議会基本条例を作った忙しかったとの感想をいただいたが、やっと本来の議員活動・議会活動ができてきたのではないかと思います。さらにもっと活動は活発化してくると思う。条例制定後のこの 1 年間の議会活動がチェックシートに落とし込まれていると思うので、本日はこのチェックシートを基に活動を振り返り、検証したいと思う。

・チェックシート中、取組内容「会議要点録をインターネットで公開する。」について、自己評価では達成度 C としているが、これは A と評価されるものである。なぜなら、常任委員会の会議要点録は公開できなかったとか、ホームページ上で探しにくい場所にあるといった事柄は抜きして、取組内容そのものをシンプルに見れば、達成できているからである。

つまり、ここで言いたいことは、取組内容の設定自体を何をどれだけ・どこまでやるのか等、より具体的に設定しておくことが重要で、それにより後々の検証がスムーズにできるということである。

・議会基本条例も制定し、それに基づいて活動し、活動の検証もしたわけだが、果たして、自分たち議会は何をしているのかという点をもう一度、問い直してみしてほしい。結局、何のために改革をやっているのかは、条例の目的にあるとおり、市民の負託に応え、市民福祉の向上と市勢発展に寄与することである。チェックシートを使って議会活動を検証し、さらに高みを目

指しているものであり、改革は到達点のない取り組みである。

先進議会がよく陥るのは、一生懸命議会改革をやって、議会改革が目的になってしまい、結局、何のために改革をやっているのかを見失ってしまうことである。そうなると、改革はしんどくなり、止めてしまったりあるいは停滞してしまう。

だからこそ、PDCAチェックシートで検証した後は、もう一度、「何を目指して取り組みをやっているのか」を再確認・共有しなければならない。これがしっかりなされている、つまりゴールを明確にしているのが千葉県流山市議会である。

・流山市議会ではこれまでも議会改革をやってきたが、あれもこれもで、いわば場当たりの取り組みになっていた。目指すものが何なのかを明確化したことで、計画的な取り組みに変わってきている。

「会議要点録をインターネットで公開する。」ことも大切であるが、それが本当に優先順の一番なのか、市民はいま議会に何を期待しているのかをしっかりと考えて、どんな順番で何から進めていくのかを思い描きながら、全体的な計画をつくったほうがいい。

・チェックシート中、「委員会の活動状況が常に見えるようにする。」としているが、果たして実際に、委員会に足を運んでくれる市民、関心がある市民はどのぐらいいるだろうか。ターゲットの絞り込みができていないのではないか。

傍聴参加する人の中でも、「常に参加する人（アクティビスト）」・「誘えば参加してくれる人（いつも協力的）」・「何となく参加している人」に分けられる。また、傍聴参加しない人の中でも、「よく分からないから参加しない人（警戒）」・「まったく関心がないから参加しない人」に分けられる。

これら分類をピラミッドにした時、各層にある人をどう一つ上の層にステップアップさせられるかを考えてほしい。「何となく参加している人」をよく分析すれば、「誘えば参加してくれる人（いつも協力的）」の層にステップアップさせられることができる。

今後、短期的なターゲットにしていくのは「何となく参加している人」である。さらに、中長期的なターゲットにしていくのは「よく分からないから参加しない人（警戒）」であり、そうしたターゲットをどう取り込み・どう巻き込んでいくのかを考えていかなければならない。

・社会のトレンドをよく見てほしい。ネット選挙が解禁になったことでインターネットなしに議員活動・議会活動はできなくなっている。市民や有権者もインターネットを使った関わり方やアプローチをしてくる。

また、今年度で国の借金が1,100兆円を超えそうである。それに合わせるかのように地方創生元年である。

久慈市ではこれまで年間約200億円を歳出してきた、足りない時は地方債を発行してきたと思う。これまで何とか借金もできたし、交付金・補助金も何とか貰えてきたと思うが、これからはそうはいかない。

つまり、今までのように一律に補助金を出すのではなく、きちんと自分たちのビジョンや計画を作った自治体にだけ渡しますよというのが地方創生である。これは国もお金がないという裏返しなのである。

これからは思うように国からお金は来ない。自分たちで何かやりたいんだったら、どこかを

削減したり、新たに生み出す必要がある。しかし、生み出すには時間がかかることである。まさに、「入るを量りて出ざるを為す」の時代であり、これからの議会はどこを削るかの議論をしなくてはならない。

近隣の町が中学生まで医療費無料化をやっているからとか、介護保険料を安くしたから、負けずうちでもやろうというようなことはもうできないのである。

地域間格差は地域間能力格差になっていくのであり、これから自分たちはどこを延ばして、どこを減らしていくのかという話をしなければならない。それは議会でなければできない話なのである。

なぜなら、首長は各部各課に予算配分し、ちょっとずつ調整はできるが、これまで支出してきたものを止めるとはなかなか言えない。職員だって止められたら困りますという話を査定するはずである。こうしたなかなか止められないものを、客観的に見ることができるのが議会議員なのである。優先順位を付けてあげるのが、これからの議会の一番の仕事である。

- ・これから自治力がキーワードになる。問われてくる自治力は、市民の皆さんの関わり方を変えろということである。これからの議会活動は市民をどれだけ巻き込めるか、いわゆる巻き込み力が重要になる。かだつて会議が意味するところはそこにある。市民の皆さんも一緒にやりましょうという雰囲気を創っていくことが重要になってくる。

- ・徳島県川南町議会では、町のいろいろな所にご意見箱を置いている。このように町民の声を積極的に聴いていこうという姿勢が必要である。北海道栗山町議会では、町の温泉の脱衣所に一般質問通告一覧を貼り出している。

町のいろいろな所、例えば、お年寄りの集まりそうな所には高齢者に関わる予算や事業、子育てママの集まりそうな所には子育てに関わる予算や事業を貼り出して、ご意見箱を置いておくとか、インターネットでの意見募集以外にも、まだまだネットを使えない市民もたくさんいるので、そういった工夫が必要である。

- ・久慈市議会にはぜひ政策型議会を宣言して頑張ってもらいたい。政策とは、地域が抱える問題の解決をはかって、市民のよりよい生活環境を維持したり創造するための対応策を示して実行することである。自分たちはそういう議会になるんだということを来年度はステップアップして目指してほしい。

<佐藤淳先生>

- ・単にチェックシートを公開するのではなく、本日冒頭に議員の皆さんから頂いたような議会基本条例を制定し活動してみても感想を文章化した内容も付け加えれば、なお良いと思う。

また、自己検証がすべて終わった後には、早稲田大学マニフェスト研究所としての第三者評価と講評と付けたいと思う。

これがもっと進化していけば、市民の皆さんと対話したうえでの市民評価も付けることができるようになると思う。

- ・この1年間での大きな収穫は、かだつて会議における市民との対話を通して、ファシリテーター

ションスキルが重要だという認識を議員各自が持ったことである。議員間討議にも生かせることなので、研修に参加してどんどんスキルを磨いてほしい。

・地方創生、自治力に大切になってくるのは、対話とそれによって生まれた繋がりから新たな行動、取り組みにしていくことである。かだって会議というインフラが整ったということは大きな成果である。

乾杯条例を作りたいという話も伺ったが、条例文を作ること自体は簡単なことである。ぜひ、かだって会議というインフラを活用し、造り酒屋、居酒屋、販売店、酒好きな人を集めて、そこで出された意見を参考に条例を作ってもらいたい。乾杯条例を制定している自治体の中には、市民の誰も知らない、居酒屋の人も知らないところもある。そのような条例なら作る意味がない。

・政策型議会を目指していきたいのであれば、政策型議員にならなければならない。そのためには、政策で戦う選挙を行わなければならない。例えば、選挙公報の書き方もそれぞれ自由にバラバラではなく、統一フォーマットにより優先する政策を3つぐらい掲げれば、有権者も選びやすくなるし、投票率向上にも繋がる。

北海道福島町議会では、議会基本条例に基づいて、議会活動の評価だけでなく、議員活動の評価も行っている。各議員が選挙公約で掲げた内容を毎年どの程度できたか、その評価を取組評価と結果評価の2つで行っている。

その評価内容は議会ホームページで見ることができ、このことによって、議員にとっては公約が実行できているか確認できるし、有権者にとっては投票する際の判断材料にすることができる。

久慈市議会では議員選挙を控えているということなので、今後、こういった議員評価を行っていくことも視野に入れながら、選挙公約を作ってもらいたい。